

令和4年度 足立区経済活性化会議
第一回中間見直し専門部会

会議録

令和4年5月23日（月）
Cisco Webex Meetings によるオンライン会議

(開催概要)

会議名	令和4年度 足立区経済活性化会議 第一回中間見直し専門部会
開催年月日	令和4年5月23日(月)
開催場所	Cisco Webex Meetingsによるオンライン会議
開催時間	午後1時30分から午後3時00分まで
出欠状況	現在委員数 5名 出席委員5名 欠席委員0名
出席委員	株式会社しまや出版 代表取締役 小早川 真樹 足立荒川職業協会 会長 鈴木 又右衛門 足立区工業会連合会 会長 瀬田 章弘 TOKYO町工場HUB 代表・プロデューサー 古川 拓 一般社団法人西新井青色申告会 相談役 大和 猛
区側出席者	(管理職) 石鍋産業経済部長、吉尾産業政策(産業振興)課長 (事務局職員) 産業政策課 産業経済協創担当 茂木、管理係 小林・小堀
会議次第	別紙のとおり
会議に付した議題	1 報告事項 (1) 経済活性化会議の意見検討結果及び地域経済活性化基本計画の改定時期について 2 審議事項 (1) 地域経済活性化基本計画の柱立て及び施策の方向性について

(会議録要旨)

吉尾産業政策課長

経済活性化会議事務局の産業政策課長の吉尾です。それでは定刻になりましたので、令和4年度経済活性化会議、第1回の中間見直し専門部会を開催させていただきたいと思っております。本日は皆様ご多用のところ、本会議ご出席を賜りまして、深く御礼申し上げます。

部会の開催に先立ちまして何点かご案内をさせていただきます。まず1点目に、区役所本庁舎の2階に区政情報課というところがありまして、情報公開の関係で、本部会に限らず、委員の皆様の名簿、会議録、会議の資料を公開させていただくことになっています。本会議につきましても会議録作成のため、本日の会議録音をさせていただきますことをご了承ください。2点目に、本日は産業経済部の管理職、事務局の職員が同席させていただきますのでございます。3点目に、本日の会議はオンライン会議となりますので、所用や接続不良などにより中座となる方もいらっしゃると思いますが、ご退席にあたり特にご挨拶などは不要でございます。本日の会議内容は後日、会議録などでお知らせさせていただきますので、そちらをご覧くださいと思います。また音声は原則ミュートをお願いしたいと思います。ご発言の際はミュートを解除してお声がけいただき、部長から指名がありましたらご発言いただきたいと思います。

次に本日の出席委員数を報告いたします。委員定数5名、出席委員5名であり、本日の会議が成立していることを報告いたします。また、令和4年度、職員の異動がありましたのでこの場で紹介させていただきたいと思っております。

石鍋産業経済部長

今年の4月1日、産業経済部長になりました石鍋と申します。前職は選挙管理委員会事務局長でしたが、7年前には産業振興課長をやっておりました。その時にお世話になった方々もいらっしゃいますが、その方々も含めまして、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

茂木産業経済協創担当係長

事務局の産業経済協創担当係長の茂木でございます。私もこの4月から参りました。今年度、この活性化会議、また計画策定に関して、完成に向けて皆様と一緒に進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

小林産業政策課主任

同じく4月から赴任して参りました産業政策課小林と申します。本日はよろしく願いいたします。

吉尾産業政策課長

では続きまして石鍋産業部長よりご挨拶申し上げます。

石鍋産業経済部長

改めまして、産業経済部長の石鍋でございます。本日はお忙しいところ、ご参加いただきまして誠にありがとうございます。経済活性化計画、足立区の産業経済の方向性を位置づける、非常に重要な計画になってございます。本来であれば昨年中間の見直しということで行はずでしたが、コロナの状況を踏まえて、昨年、産業実態調査というのを産業経済部で実施し、直近の経済動向を反映させた計画にしたいということでこのタイミングになりました。皆様方の生の声を反映させながら、しっかりと計画でいきたいと思っておりますので、どうぞ御協力のほどよろしく願いいたします。

吉尾産業政策課長

それでは、議事を進行していただく前に資料を確認させていただきたいと思っております。

- ① 次第
- ② 「資料1」 委員名簿
- ③ 「資料2」 報告事項資料
- ④ 「資料3」 審議事項資料
- ⑤ 「資料4」 「足立区地域経済活性化基本計画」 冊子

以上です。お手元に揃っていないものがございましたらお声かけください。画面共有で表示いたします。

続きまして、当部会の部会長の選任につきましてご案内いたします。足立区経済活性化会議各専門部会運営要領に基づき、部会委員および部会長は活性化会議の会長が選任することとなっております。前回の活性化会議では池村会長より、部会委員の皆様を選任いただきましたが、部会長の選任は済んでおりませんでした。そこで、本部会の実施に先立ちまして事務局で池村会長に確認を取ったところ、区内小規模事業者を代表されるお立場でもある、西新井青色申告会にご所属の大和委員を部会長に選任する旨のご意向を伺いましたので、本部会は大和委員を部会長として進めさせていただければと思います。それではこの後の議事進行を大和部会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

大和委員

西新井青色申告会の大和でございます。今回進行役ということで、部会長をお受けいたしましたので、何とぞよろしくお願いたします。それでは早速でございますが、お手元の次第1番の報告事項につきまして、吉尾課長より説明をよろしくお願いたします。

吉尾産業政策課長

事務局吉尾でございます。報告事項の1「経済活性化会議の意見検討結果および地域経済活性化基本計画の改定時期について」は資料2をご覧くださいと思います。本日、時間を有効に活用させていただくために各委員には事前にご説明させていただいておりますので、簡明にご説明させていただきます。

まず意見反映結果ですが、1月24日に行ったものにつきましては、別紙1の方でご説明させていただきたいと思いますが、その前に、本資料3ページの下をご覧くださいと思います。中間見直しのスケジュールでございますが、本日の部会もこちらに記載してございます。6月、8月に全体会を開催し、9月から10月にパブリックコメントを経て、11月下旬に再度全体会を開催する運びとなっております。ここで計画の答申をいただきたいと考えてございます。委員の皆様は12月までの委員の任期というところでございます。答申をいただいたところ、1月の完成というところで、できましたものを皆様方にお届けさせていただきたいと考えてございます。

では、次の4ページ、現況と課題についてです。こちらは1月の全体会で委員の皆様からご意見いただいたところがございます。こちらは事前にご説明を差し上げているところですので詳しいところは割愛させていただきますが、この大きな項目の6つにつきまして、委員からのご意見を反映したものが7ページからの資料となっております。私からの報告は以上でございます。

大和委員

それでは今の御報告につきまして各委員の皆様からご意見ございますでしょうか。ミュートを解除して、ぜひご発言いただければと思いますので、よろしくお願いたします。

事前に区の方から個別の説明いただいておりますので、その際に各委員の方の質問事項等はお話をされているかもしれませんが、せっかくの機会ですので、各委員からご発言をいただければと思います。それでは、名簿の順番で恐縮ですが、はじめに、しまや出版の小早川様、お願いできますでしょうか。

小早川委員

しまや出版の小早川でございます。よろしくお願いたします。感想レベルで恐縮ですが、コロナ禍でテレワーク需要が非常に高まっていて、かつキャッシュレス等が進む中で、インターネット、ITに関するこれからの事業者の導入、促進というのは必要不可欠なものと思われませんが、足立区に関してはまだまだ利用率の向上やより高度な利用が課題であり、これからますます伸ばしていける部分でもあるかなと感じました。以上でございます。

大和委員

ありがとうございます。それでは、鈴木様よろしくお願いたします。

鈴木委員

大成倉庫の鈴木又右衛門でございます。よろしくお願いいたします。足立区は、人口も増加傾向ということで全体の経済の流れからするとまだポテンシャルがあると思っています。子育て世代への支援などは大きな社会問題になっている分野ではありますが、この人口動態を見てまだ対策の余地はあるのかなと感じるところです。世にDXと言われていますが、そうしたものが今後絶対に必要になってきますので、逆にいろいろなインフラがないならITで環境を整えていくチャンスでもあります。補助金だけではありませんが、効率的にその辺りの施策ができる余地が残っているのかなというふうに思っています。以上です。

大和委員

ありがとうございます。それでは瀬田様、よろしくお願いいたします。

瀬田委員

足立工業会連合会の瀬田でございます。よろしくお願いいたします。今お二方からご意見が出されましたが、まったく私も同様に感じております。このコロナ禍で相当な売り上げ減少に直面された会社が多いのですが、昨年の調査で、対策の必要性がないとか、やっても仕方がないというような回答がかなりの確率で見られましたので、何も対策を講じてないということは、端から見ても危惧するところです。この辺をどういうふうに啓発していくのかということは課題かと思えます。あるいは、もう事業撤退しようかなという会社もいらっしゃると思うのですが、そういった方々のリソースをやる気のある会社はどういうふうに移行していくのかということも課題であろうと感じております。一方、鈴木委員のおっしゃったように、足立区は非常に若い方が今たくさん住んでらっしゃいますので、経営のリソースとして非常に重要な「ひと」という要素に関しては求人しやすい可能性もあると思えます。その辺をうまく生かして地域の企業がさらに次のステージに上がれば、と願っています。以上でございます。

大和委員

ありがとうございます。それでは、古川様よろしくお願いいたします。

古川委員

TOKYO町工場HUBの古川でございます。どうぞよろしくお願いいたします。まず、このアンケート結果を見まして思うところは、やはり時代は大きく変化しているということです。まだ過渡期にあるというようなところもありますが、本格的に変化が始まっているところもあると感じました。そういった中で産業全体を大きく眺めてみると、今まで通りの同じような発想でやっている新しい時代に対応できなくなっていると感じています。ただし、そういった変化を一般論で括ってしまうと本質が見えなくなる。足立区の特徴を明らかにし、具体的な変化のありようを絞り込んでいく必要があるのではないのでしょうか。どこまで深掘りできるか難しいところかとは思いますが、その具体性にこそ区内の事業者や産業に関わる方々の期待があるのではないかと思います。今日は、そのあたりを短い時間ですけれども、ディスカッションできればと思っています。

大和委員

皆様ありがとうございます。実は私の所属する青色申告会は、個人事業者、それも極めて規模の小さい零細事業者の方ばかりなのですが、このクラスの方の場合、コロナ禍で売り上げが減少したときの一番の対策が支出を減らすことでした。収入が減った分、支出を縮小することでバランスをとるという方がいます。ですから、何もやっていないと言いつつ、収入に合わせて支出を抑えることで、対応はできているというような会員さんも多かったようにも思われますが、規模の大きい企業の場合は意外といろいろな形で対策を考えてらっしゃったのではないかなというのが、アンケートや会員さんの状況を見たときの感想でございました。足立区の実業家の方々、アンケート結果以上に意外と真剣に対応を考えてらっしゃったかもしれないというのが私の受けた印象でございます。

それでは、報告事項については以上ということで、次第2の審議事項につきまして、課長よろしくお願いいたします。

吉尾産業政策課長

事務局の吉尾でございます。次第2の審議事項ですが、「地域経済活性化基本計画の柱立ておよび施策の方向性について」をお諮りしたいと思います。

こちらについても委員の皆様様の議論の時間を十分に確保したいと考えておりますので、事前にご説明した所を簡明にご説明させていただきます。資料はA3横の資料をご覧ください。先ほど、報告事項でも各委員の方からお話がありました通り、昨年度に産業実態等アンケートをとり、足立区としての今後の特性といいますか特徴は、上の二つの囲みの課題、柱立て、施策の方向性というところに大きくその特徴を打ち出せるのではないかと考えてございます。

課題を感じていない又は何らかの課題を講じていない、そういった事業者が一定程度あったというところを区としても大きな課題として認識しているところでございます。インターネットの活用につきましても同様でございます。この大きな囲みの所の上から二つ目の箱でございます。この課題のところを大きな柱として立てさせていただいたところでございます。一方で、委員からもありましたように、売上の回復、増加をやっていきたくいけれどもなかなか難しい事業者は、どう展開していくかということも一つ大きな課題でございますので、この二つですね。イメージとしましては、前半のものは「底上げ」のイメージ。そして、上のところは「突き抜け」。突き抜けていただく事業所を区としても支援していきたいというふうに考えてございます。

これを柱立てそして施策の方向性にも整理したというところでございます。そのほかに、四つの箱を用意してございます。当然これらも重要でございます。

この4つの課題についても、人材の確保、区内起業の促進、新たな消費生活の適応、訪れたくなるまち作り、魅力作りというところで柱を整理して施策の方向性をラインナップさせていただいたところになります。私の説明は以上でございます。

大和委員

課長ありがとうございます。非常に重要かつボリュームのある部分でございますので、各委員の方から活発なご意見を頂戴できればと考えております。ご意見のある委員の方、ご発言をお願いしたいと思います。ミュートを解除していただいて、遠慮なくご意見をいただければと思いますがいかがでしょうか。それでは、鈴木様お願いします。

鈴木委員

一番先で販路、売り上げの回復ですね。販路の推進等については、やはりメイドイン足立のものを各企業が頑張らましようというのなかなか難しいので、例えば共通の通販サイトを作るなど設定をしていただくというのも一つの方法かと思えます。あと例えば、うちは倉庫屋でして、お客様の要望に応じて、サイトの運営からコールセンター、出荷、アフターフォローまで全部やりますが、どこかが中心になってそういったものを受託して足立区内の業者であればどこでも出品できる、どこでも売り上げが立つ、資金の回収を含めた決済関係まで行う、ということができれば完璧ですが、そこら辺のプラットフォームを足立区さんが先頭に立つことで、何かやりようはないのかなと思いました。商売のことなので難しいかもしれませんが、そういうものがあっても良いのかなと。単体でやっても売れないので、足立区が立ち上げた通販業者でもいいですし、手数料はかかりますがアマゾンや楽天などの通販をやってもいいと思えます。結果的に区内の業者の売り上げが増えればいいわけですから、何かそういう具体的な取り組みも考えてみてはいかがでしょうか。以上です。

大和委員

ありがとうございます。吉尾課長、いかがでしょうか。

吉尾産業政策課長

鈴木委員、どうもご意見ありがとうございます。各社の通販、ネット上での販売への支援というものは、区としても、令和3年度から大きなECモールの出店を後押しする支援を始めたところでございます。あとは、プラットフォームまでいきませんが、IT・IOT相談というものをやっております。プラットフォームのような考え方というのは非常に斬新だなというふうに思っております。そこにつきましても検討していきたいと思えますし、委員の皆様からもご意見いただきたいと思えます。

大和委員

ありがとうございます。それでは、また各委員からご意見いただければと思いますがいかがでしょうか。小早川様よろしくお願ひいたします。

小早川委員

よろしくお願ひします。ITの活用を推進するというのは当然のことで、ぜひお願ひしたいと思うのですが、そこで確実に抜けてはいけないのがセキュリティサポートかなと思っております。ITを活用していく上でITのスキルやリテラシーが低いことによって、個人情報流出などの危険性がありますので、ITの活用と並行して、セキュリティサポートに関する支援は必須かと思っております。個別の事業例等の細かい内容になってくると思うのですが、ぜひ御検討いただきたいと思ひます。それと同時に、現時点で足立区さんの色々な支援の中では、ISOの取得支援というのがあったかと思ひますが、プライバシーマークの支援ですとか、プライバシーマークに即したような、業界団体等が行っている個人情報保護に関するサポート、費用的なサポートはあまり見受けられないように思ひます。プライバシーマークも取得には30万、40万かかってきますので、例えば半額補助などそういった支援も、検討いただけるとありがたいかなと思ひます。それと、時代の流れとしてSDGsが割とブームになっています。さいたま市とか川崎市辺りでは、SDGsの事業者向けの支援といひますか、認定支援などを始められているところがあります。そういったところは今回の骨子部分とSDGsの8、9、10、12あたりに関係するところかなと思ひているのですが、例えばSDGs認定企業制度などを考えるのも一つあるのかなと思ひています。

最後になります、私は足立ブランドの認定に関わらせていただひていますが、個別事業例の中に毎年やっている足立ブランド認定推進事業があります。この書き方ですと、足立ブランドの認定を推進する事業なのか、足立ブランド認定された事業者支援を推進する事業なのか、分かりにくい部分があるように思ひます。足立ブランド認定された事業者を推進しているというのも一つかなと思ひているので、「足立ブランド認定・(中黒点)推進事業」という形で記載いただくと、両方の意味にとれて実態に近くて良いかなと思ひました。細かいことですみません。以上です。

大和委員

非常に具体的なご意見をありがとうございます。吉尾課長よろしいでしょうか。

吉尾産業政策課長

吉尾です。小早川委員ご意見ありがとうございます。まず、セキュリティーサポートにつきましても非常に重要なことだと認識してございます。個別の事業例のところでも記載しておりますが、具体的に今考えていますのは、ウェブ活用アドバイザーやIT・IOT相談による支援のなかで対応していきたいと考えております。資金面の補助であるとか、先ほどの2点目のプライバシーマークのお話、ここも相談員が相談に乗れる部分があるだろうと考えておりますが、具体的な補助の必要性としては課題として検討してまいりたいと思ひます。

そして、SDGsのお話でございます。すみません、今日は資料がなく口頭だけで分かりづらいと思ひますが、ポイントをご報告させていただきますと、内閣府が推進するSDGsでは、2030年までこういう形で取り組んでいくというような各自治体の手上げ式のものに関して、足立区も手を挙げていたところで、先週の金曜、それが認定されたことが発表されたところです。その中で、実は委員の方からもご指摘ありました、企業の認定を推進していこうという考え方がございます。SDGsが非常に大きな考え方ですので、産業部門も当然リンクしてきますが、区としては環境の分野だとか社会の分野とか、経済の分野も統合して考えてございますので、経済分野では企業を認定させていただき、バックアップしていきたいと考えてございます。文言を入れるのは時代の要請でございますし、SDGsの提案書の経済分野では、実は冒頭の二つの大きな枠囲みの方向性を盛り込ませていただいたところですので、本計画にもSDGsの文言を入れた方がいいという点をご指摘のとおりかと思ひます。そして最後の足立ブランド認定推進事業の記載についても、委員ご指摘のとおりだと思ひます。認定をした企業に対して、バックアップさせていただいて、皆様と共に足立区を盛り上げていくというところですので、確かに中黒点を入れた方がわかりやすいかと思ひます。区の考え方も、そういった事業の名称からして現れるところがあると思ひますの

で、そこについては、できるだけその方向で修正してまいりたいと思います。

大和委員

ありがとうございます。非常に具体的かつ今後に活かせるお話なのかと思います。ぜひ他の委員の皆様もご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。瀬田様いかがでしょう。

瀬田委員

これは質問の確認ですけど、柱1、柱2を中心に全体としてこの柱立ての6項目の方向性で行くこと、さらにこの展開した具体的な対策等、個別事業でこういうのがあるということで、全体の方向性について今聞かれているということによろしいですか。

吉尾産業政策課長

はい。事務局の吉尾でございます。委員ご指摘のとおりでございます。ただ、個別事業例というのはあくまでも今こういったことがあるというところでございますので、どちらかというところの課題、柱立て、施策の方向性についてご意見いただきたいと思っています。その他は委員ご指摘のとおりでございます。

瀬田委員

柱については、かなり盛り込まれているというか、包括的になっているということで、このとおりでいいのかなというふうに思っていますが、これは具体的に展開した次の段階になったときに考えなければいけないことが多いように見受けられます。

各委員おっしゃっていただきましたが、やはりデジタルトランスフォーメーションは小規模事業者でも避けて通れないと考えています。周りを見ますと、DXの前に当然デジタルイゼーション、デジタルイゼーションが必要ですが、デジタル化も進んでいない現実があるため、これを早く進めないとDXとは程遠い世界になってしまうため、この柱1、2を通じてまずデジタルイゼーション、デジタルイゼーションを進めていくというのは非常に有効かと思います。

テクノロジーはあくまでテクノロジーでしかなく、その会社の理念ですとか何のために会社を起こして社会で何をしたいのかというところが一番重要と私は考えています。そこからいろいろな事業計画とかというのは生まれてくる訳ですが、そこでCSRといった考え方があります。今でいうと2030年までのSDGsが具体的ですが、CSR的な考え方を各企業に促していくことは必要だと思います。足立区がSDGs未来都市に手を挙げられたということで、足立区民としても大変誇らしいのですが、自治体は結局入札では価格で決めるというところがまだ多いです。私の知っている事例だと、和歌山市とか北九州市、横浜市も一部そうですが、SR調達ということで、入札価格だけでなく、その会社が地域貢献としてどのようなことをやっているか、どういうふうに雇用を維持しているか、社会を良くするためにどういう活動をしているかをちゃんと見た上で発注する方法がとられています。総合評価ということでなくて各入札の条件の中にその具体的な項目を入れるというようなことをやられているようですので、足立区としても、こういった事業者を選ぶのかとか区内業者に見えるような形にさせていただくと、事業者の皆さんも推進力がつくような気がいたします。以上です。

大和委員

これについて、吉尾課長いかがでしょうか。

吉尾産業政策課長

吉尾でございます。瀬田委員のご指摘、DXの前にデジタルイゼーション等に対応する必要があるということですが、産業実態アンケートでデジタル化が進んでいない企業が多くて私も正直ショックを受けました。産業経済部としても、Web活用アドバイザーを導入して、そういった事業者に寄り添って課題を解きほぐしながら、DXの前にまず初歩のファーストステップを踏むというところをいかに進めていくということが重要だというふうに考えていますので、その支援を充実させていきたいと思っています。そしてSR調達ですが、確かにSDGsを掲げていく以上、先ほどの認定企業制度というところもございませし、区としてどういう形で進めていくのかというところは、今後、経済部門以外の部署とも共有をして、

さらには契約部門とも共有をしていくべきところかと思いました。庁内で共有をして進めていきたいと思
います。以上です。

大和委員

ありがとうございます。では鈴木様、ご意見いただければと思います。よろしく申し上げます。

鈴木委員

先ほどはいきなり通販の話で個別論に行ってしまう申し訳ありません。課題と柱立てについては、施策
でも出していますが、起業の費用とか外国人の観光客を集めようというのは、課題としては非
常によくわかりますが、これを現実に足立区さんに先頭に立ってやっていただくのは難しいかなというふ
うに思っています。働く人の確保は、業界によってバラバラですが、例えば外国人労働者をこれから積極
的に受け入れようとする場合は当然住むところから生活を支えていかなきゃいけないので、地域がまと
って協力していく姿勢が必要になると思います。一般企業でも、大企業は自分で準備できますが、中小企
業の場合にはなかなか難しいので、中小企業支援ということになるかと思えます。日本の中でいえば高齢
者と女性です。女性とシニア向けの就労支援と言っているのですが、これについて具体的に何かするとき
は補助金が出るといったことも必要ですね。先ほども申しましたが、やはり若い方が足立区には住んでいま
すし、流山市が成功したように、子育て支援というよりも女性が働きやすい支援をPRできないのかなと
いうふうに思います。

それと、デジタル化です。DXの2歩前ぐらいのデジタル化については、先ほど申し上げましたが、や
はり共通のプラットフォームがあり、高齢者でもとりあえずスマホを持ってアプリのボタンを押すと、足
立区に繋がり、そこで生活情報などを簡単に得られるとか、そういうことから始めないと、なかなかデジ
タル化は進んでいかないような気がします。これは経済活性化と言っているのかわかりませんが、持って
いない方に無理やりスマホを持たせるのは難しいですが、DXに行く前にデジタル化を推進するには、そ
ういった足立区ならではのサポートができれば、区民や中小事業者の社長にも喜ばれるように思います。
以上です。

大和委員

ありがとうございます。こちらも課長いかがでしょうか。

吉尾産業政策課長

事務局の吉尾でございます。まず、起業の支援を足立区が行うというのは難しいのではないかというご
意見ですが、私どももまさにその難しさを感じてございます。こちらに書いていないところで申し上げま
すと、創業5年目のところまでは様々な具体事業を入れておりますが、起業する方への優遇措置などによ
り、足立区で起業して良かったと感じてもらえるような取り組みができないかということ議論している
ところです。それで、どのような効果があるのかということところは、もちろん詰めていかないといけな
いと思っておりますが、こんなことを考えております。

2点目の女性、シニア向け支援についても、区としても難しさを感じています。高齢者の高いスキルを
持っている方が企業とコラボして、その有効な能力を活用していただきたいというマッチングの事業など
もやっているところでございますが、女性についてもそういったところができないかというふうに考えて
いるところです。

そして最後のITリテラシーですが、スマホを押して区に結びつくような仕組みも非常に大事だと思
います。ちょっと話がずれますが、高齢者がスマホを使えていないことで、昨年度、コロナのワクチン予
約がかなり難しかったという実態がございまして、昨年末から、産業経済部でも高齢者を対象にスマホ講
座をやり、非常に有効でした。その企業版みたいなイメージに近いかなと委員のお話を聞いて思ったの
ですが、先ほど瀬田委員の方からもありましたように、そういったITリテラシーを上げていく個別支援とい
うものはやはり必要かなと考えてございます。

大和委員

ありがとうございます。ちょっと別の話になりますけど、今ドコモさんが携帯電話第三世代の終了に伴

いまして、スマホへの切り替えキャンペーンを積極的にやっておりますが、私の家内が未だに折りたたみ携帯を使っているということで、月に1回必ずNTTからスマホへの切り替えの案内が来る状態です。こういった流れも踏まえ、今の高齢者へのITリテラシーの支援は需要があるだろうと思いました。

それでは古川様、ご発言いただければと思います。

古川委員

はい、わかりました。ありがとうございます。まずは、全体的な印象を申し上げます。地域経済活性化を目的とする「足立区」の計画という趣旨を考えると、足立区の強みと個性を打ち出して差別化することが必要かと思います。現在の計画をざっと見たところ、少し特徴が見えづらい。例えば、これが鳥取県の計画であると言われても区別がつかないかもしれない。足立区には他にはない魅力的な特徴があると思っています。それを具体的に計画の中に盛り込んでいくことで、区としての戦略を明確にできるのではないかと感じています。

例えば、課題として挙げられている「売上げの回復、増加に苦心する事業者が多い」というところでは、「柱立て」として「販路拡大や新製品の開発、先進技術導入」と書かれています。「新製品の開発」は、メーカーのように独自製品を作っているところに対しては訴求力があるのかもしれませんが、あるいは、これから新しく独自製品の開発を開始する意思を持っているところに対しては有効かもしれませんが、しかし、足立区にある工場の多くは、足立ブランドの認定企業も含めてそうですが、どちらかという製品開発ではなく「加工」をメインにしているのではないのでしょうか。加工業というのは、ものづくりではあるけれど「サービス業」です。このサービス業を行う町工場が、今、激減しています。本当に大変なことになっていて、東京都全体でも2019年時点で1万件未満まで工場数が減ってしまっています。もともとは10万件近くあったものが、そこまで減ってきているのです。加工を行う工場の数が都内で減少していることから、メーカーが製品を作ろうと思っても作れないという状況さえ生まれてきています。実際、そのことであふたしているというのが実情です。

東京でもものをつくることには諸々の課題があります。それに対応できずに、多くの工場や職人が廃業を余儀なくされている訳です。小手先の対策では不十分です。例えば金属加工業の工場が「新製品開発」だと考えて、新しい雑貨を開発しても、それで窮地を救えることにはならないのです。そうした対症療法のレベルの話ではなくなっています。

途方に暮れて、「どうしていいかわからない」という事業者が足立区には多くあるのではないのでしょうか。その悩みと向き合う姿勢を示してあげないといけない。「経営を多角化して、面白いキャンプ用品作りましょう」という程度のアドバイスでは、道は開けない。うまくPRできれば、一時的に話題になることもありましようが、その効果はほとんど持続しません。

一方、足立区の特徴にもものづくりのクラスターがある。加工業者がこれだけ密集しているところは全国各地を見ても珍しい。東京都内で比較しても、台東区とか荒川区とか葛飾区ともちょっと違う分野の事業者が集まっている。足立区の特徴を地域の活性化として生かしていくことが有効だと思います。

ITについて補足すれば、売上が減っているからITを活用しようというレベルの解決策では、途方に暮れている事業者の助けにはならないかもしれない。もっと基本的なところに向き合い、一緒に寄り添ってあげられるような施策だとか柱立てがあれば、足立区らしいと思います。

私の経験上、儲かると分かれば人は取り組みます。儲かると思えないからIT化しない。IT化が面倒くさいという理由だけではなく、そもそもITを導入して経営改善するのだろうかという根本的な疑問があるからやらない。その効果を体験することも経験することもない。

また、WebデザイナーやITインテラスターはどう使うかを教えてくれるけど、どう儲かるかまでは教えてくれない。儲からない理由がIT化できていないことなのであれば話は単純だけれども、実際は様々な要因が絡んでいる。IT化で何の成果があるのかきちんと伝えてあげる必要がある。IT化が当たり前だからやるべきだとか、デジタル化して遅れないようにやりましようよ、みたいな呼びかけだけでは納得する経営者はいないわけです。

そのところを一緒に考えたり、必要な情報を伝えてあげることが大事です。個別企業の努力では難しいところもあるので、区として寄り添って考えていくようなことがあればいいかなと。DXの前にデジタル化って言うけど、そのデジタル化のさらに前のところでみんな引っかかっているの、そこから一緒に考えることがスタートだと思います。きちんと言葉にして伝える、成果を体験させるということを具体的

に行うことです。

こうした施策を考えるにつけても、足立区としての特性や魅力を外に伝えていくことが一番大事だと思います。個別の企業に単に頑張れ！頑張れ！と言葉で応援しても、そろそろ限界が来ている状況になっています。どうしたら、この地域として訴求力を持たせるか。例えば新潟県の燕三条。個別の企業の名前は意外と知られていないわけです。〇〇刃物とか、〇〇屋と言っても誰も知らないけれども、燕三条で作っていますと言うだけで、何かすごい技術力があるような印象を持つわけです。

リソースに必ずしも恵まれていない地方都市でさえ、そのような魅力を醸し出せるのです。東京にいるわたくしたちにできないわけではない。「足立区の企業です」ということであれば「そうですか。ぜひ頼みたい」と言われるような。そうするためにどうしたらいいかということが、この活性化計画の中にあるべきだと私は思っています。

このような取り組みは個別の企業にはできないことです。国がやってくれるわけなし、東京都も各市町村区のことまで手が回らない。足立区のこと、足立区しかできない。足立区としての個性が抜けてしまうと、どこの県でもやっているものに見えてしまう。外から見た時に何も面白味がないし、それでは事業者も希望を持ってないのではないかと思います。

勝手なことを申し上げました。一旦、終わります。

大和委員

具体的なお話ありがとうございます。青色申告会の会員様も、零細の方ばかりですので、後継者がいない等の理由で廃業されることも多くなっています。例えば下請けの研磨業の方が廃業されますと、代わりの研磨屋さんが見つからないと言って、もう右往左往する状態です。研磨に関連して、汚れる、汚いというイメージもあって誰も後を継ぎません。以前は足立区だったら研磨がいくらでも頼めたのに、今は足立区でも研磨ができないという状況になっているところからも、中小企業者の置かれた状況の厳しさを私もひしひしと感じているところです。

それでは、吉尾課長よろしいでしょうか。

吉尾産業政策課長

事務局吉尾でございます。古川委員、本当に核心的なご意見いただきましてありがとうございます。我々としては、足立区の計画がどうあるべきか、というところをもっとクリアに出していくべきと痛感したところがございます。一点目の売り上げの回復の話に関しては、途方に暮れるという本当によく伝わる表現をいただきましてありがとうございます。昨年のアンケート結果は、我々としても非常に大きな衝撃を受けましたが、やはり古川委員おっしゃったとおり、事業者が途方に暮れているというところがあったのだと思います。我々としては、個別事業の「なんでも相談員」のように、途方に暮れている事業者の気持ちに寄り添っていく支援が必要だと考えています。ですので、この計画の方向性も間違っていないかなと思うのですが、その点をいかに明確に出していくかという事が重要かと改めて思いました。

あとはインターネットのお話、やはりITのリテラシーが低いというところでは、「Web活用アドバイザー」など、事業者のもとへ足を運んで寄り添って一緒に考えていこうという支援の方向性は間違っていないと思いますが、やはりもう少しシャープに明確に打ち出していく必要はあるのかなというふうに思いました。あと、加工業の多さであるとか、ものづくりの足立区のポテンシャルというところは、実は別の会議媒体も含めて瀬田委員や小早川委員ともディスカッションをさせていただいておりまして、ものづくりとしての足立区の一体感などを出してサポートすることによって足立区の良さを発信できないかと考えているところです。この計画の中にもそういった考え方、エッセンス、コアみたいなものを入れ込んでいきたいというふうに考えております。ご意見ありがとうございました。

大和委員

ありがとうございます。一応、委員の皆様からご意見をいただきましたが、最後に何かご意見ございましたらぜひ御発言をお願いいたします。皆さんいかがでしょうか。

瀬田委員

瀬田です。私、古川委員のご意見実は全く賛成で、こういう建付けで出てきましたのでこれについて意見を申し上げましたけども、そもそもデジタル化して何をやるのかというところが重要です。コンテンツが良くなければ、商売に繋がらないので、そこをどう磨いていくのかというところをやはり考えなければいけないと思います。

B to BとB to Cで違うと思いますが、今までB to Bでやっていた会社がB to Cで小物作ったりとかして、うまくPRして話題を作ったりしても、実はボリュームがなくて売り上げにならないと企業は変わっていきません。一方、古川委員おっしゃったように素晴らしい加工技術などが足立区にはまだまだ眠っているわけですが、私としては、足立区の魅力は、実際に製品を使う現場が近くにあるということだと思います。例えば、福祉機器だったら福祉の現場がありしますし、医療の現場、学校の現場があったり、あるいは大学があったりして、商品開発するときに実際にそこに持って行って、色々なアドバイスや情報を收拾することで、加工業者さんも新たな気づきが得られると思います。そうした人たちが集まるハブ作りを足立区でもやっていただくと、それもそれで一つ良いのかなと思います。変わるという人は変わろうとしている一方、変わろうとしない人は何やっても変わらないという現実もあって、ここは難しいところではありますけれど、大事なことは、変わりたいけれど何をやっていいのかわからない、という方々をどう底上げしていくかということです。古川委員おっしゃったように、やはり足立区の下町ならではの生活感の中で、ものづくりやサービス業などいろいろな事業が営まれているという強みを、この基本計画の中に反映しないと総花的になってしまって、あまり結果は出ないのかなという気はいたします。

あと、ものづくりでは、技術要素をしっかり磨いていくと同時に、見せ方もやはり大事なので、クリエイティブな方々も区内にいらっしゃると思いますし、そういった方々とも繋がっていき、商品価値をつくることも含めて、区の方でリードして進めていただけるといいのかなという気がします。以上です。

大和委員

瀬田様ありがとうございます。こちらについては、吉尾課長、何かございますでしょうか。

吉尾産業政策課長

事務局の吉尾でございます。瀬田委員ご指摘いただいたところ、別件のSDGsとも関連していますが、やはり福祉ニーズも高いですし、異業種とのコラボがしやすいというところは足立区の強みなのかなというふうに思っております。下町ならではの、足立区ならではの生活感についても強みとして認識して、この計画の中でも打ち出していく必要があるのではないかと思います。また、見せ方、発信の仕方も非常に大事だと思いますので、これにつきましても新たに施策事業というものを考えておりますので、委員の皆様からご意見いただきたいと思っております。

大和委員

ありがとうございます。それでは最後になりますけれども、皆様から他にご意見ありますでしょうか。では、古川様よろしくお願いたします。

古川委員

すみません、終わりかけですが、柱の4番、「起業・創業者」について補足します。起業家の誘致・育成こそ足立区の特性を生かしてやるべきだと思います。「起業家」と一括りで言ってしまうとあまりにも漠然としてしまいます。「足立区に呼びたい起業家」ということをはっきり伝えるべきだと思います。瀬田委員が今おっしゃったように、「足立区の中であれば育ちますよ」ということをアピールするといいですね。

足立区にある様々な魅力、それはものづくりだけではなく、もっとたくさん魅力があるわけですが、そういった豊富な魅力についてアピールすべきです。足立区に来て創業すれば地元の持っている豊富なリソースを使えますというように、具体的なメリットをはっきり言わないといけないです。

創業3年目、5年目を支援しますと謳うだけであれば、それはどこでもやっているわけですね。他の地域との違いを打ち出し、足立区にはこういう起業家に来て欲しい、足立区に来ればあなたの事業は育ちますよっていうことをしっかりアピールすることができれば良いと思います。

創業支援は足立区の経済を活性化させるための重要な戦略だときちんと位置づけ、足立区を持っているメリットを最大限活かす大きなチャンスだと考えます。ただ「やります」ということだけでは足りません。

ぜひ目一杯アピールしてほしいと思います。

それからもう一つ、外部からコンサルタントなどの専門家等を招致することはよくありますね。これはこれで良いのですが、足立区の中には70万人の人口がいるのですから、もっと区内の優秀な人たちを掘り出し、育てる機会もあって良いように思います。足立区には、私が見てる範囲だけでも優秀な人がたくさんいて、面白い人がいる。区内のポテンシャルを発掘することは非常に大事で、その方が足立区民を勇気づける事になると思います。区外からやってきた方にああだこうだと言われるよりは、やはり足立区の人たちが一所懸命やっている姿をしっかりと区民に見せてあげた方が良いのではないかと常に思っています。

大和委員

古川様ありがとうございます。では、吉尾課長、委員の意見についていかがでしょうか。

吉尾産業政策課長

ありがとうございます。古川委員のご指摘は先ほどのお話のご指摘と通じるものがあるのではないかと思います。足立区の強みは何かをしっかりと認識していくことで、起業・創業のところもクリアに打ち出せる部分があるのではないかとということかと思えます。強みをPRで明確に出していくというのは古川委員の共通したご指摘かと思えますし、我々としてもやはり足立区としての強みは何なのかという部分をしっかりと認識し、この機に改めて整理をしていくべきかと思えます。ご意見ありがとうございます。

もし可能ならば、私どもの方から、少しご質問というか、委員にご意見を伺いたいことがございます。大和部会長からご承認いただければ少しご質問させていただきたいのですが。

大和委員

はい、ぜひお願いいたします。

吉尾産業政策課長

ありがとうございます。お時間が長引いており大変恐縮でございます。皆様からご指摘いただいた、足立区の強みを明確に出していくべきというところは、突き抜け、底上げについても言える部分だと思ったところですが、他にもDXの前にまずデジタル化だというご意見をいただきました。

人材の確保の議論の冒頭で出てきたところで、DXの人材確保というのはなかなか難しいと思いますが、ものづくりだけではない、経済の現場の中での人材の確保や育成について、皆様がどのような形で考えていらっしゃるのか、どのようなことを区に望みたいのかということをお聞きいただければと思います。よろしく申し上げます。

大和委員

ぜひ、委員の皆様からご発言いただければと思います。それでは、小早川様よろしく申し上げます。

小早川委員

はい。今うちの会社は20名程度の会社ですけども、仲間というか、同等規模のものづくり系の方とお話しすると、人材育成、人材確保はどこも課題に感じています。人材育成に関しては、若年層のZ世代の人材育成、指導の仕方には、皆さん困っているとか迷っているという状況です。これは学生時代の教育の仕方にもよると思いますが、好きなことを仕事にしましょうとか、あなたが将来やりたいことを見つけましょう、という形で成長してきて、実際に夢や希望を持って学校を卒業して、仕事をされるときに、ミスマッチが生じることが多いような気がしています。ミスマッチというのは、就職したけれども、自分のやりたいことではなかった、好きなことではなかったっていうところです。本来、仕事は多岐にわたるので、仕事の中でやりがいを見つけられれば良いのですが、好きなことというキーワードで就職活動をしてしまうのでミスマッチが起こっているようです。社会構造の問題なので、今からどうこう言うところではないのですが、そもそも、中小零細のものづくり企業にまず就職したいかどうかというところが大きなハードルであると思います。例えば、よく知っている企業さん、目立った特徴のあるものづくり企業に就職を希望されても、「親ブロック」といって親御さんが中小零細のものづくり企業に行かせないということも頻発しているように思います。そのため、中小のものづくり企業というのは採用に困難を極め

ています。うちの例で言うと、ちょっと特徴持ってやっていますので採用活動をするとなりに応募がありますが、採用した後は短期間で辞められる方の率が高いです。辞める理由を聞くと、思っていたのと違ったということと、業界の裏が見えたから満足したというものがあります。自分のやりたいことをある程度達成したのでじゃあ次のことをやろうと。もう終身雇用なんて考え方もまるきりない状態でございますね。仕事は趣味で、プライベートでやっていけばいいやというような感覚の方が多いような気がして、仕事に対する感覚がライトだと感じます。

それから、コロナ禍に入って精神的にいわゆるうつという症状を訴える方が多い気がします。うちでも20代前半の社員が3名ほど発症しまして、1名は1年間自宅療養でなんとか復帰して今は元気にやっていますが、2名は退職となりました。1年半までは休業補償等ができますので、何とか1年半と思っていたのですが、やはり復帰するのは難しいということで、精神的な強さを持たない層が増えているように思います。実際、職を求めている方たちにも仕事をしなきゃいけないという危機感が今薄れている状況かなというふうに感じます。人が欲しいのでそれでもいいやと採用することによって、ミスマッチが起こって短期間で辞めるということもよく聞いております。あと最近では、やはり50代、60代の高年齢の方の応募が増えている感じがしております。

どうミスマッチをなくしていくかというのは、若年層と高齢者層で採用したい層も企業によっても違うと思いますが、ものづくりの現場で若い層が欲しい場合、例えば、地元の高校、商業や工業の学校との連携が考えられます。地元の荒川や足立そういったところにある高校の生徒に足立区の企業に入ってもらような流れを一層強固なものにできないかな、というふうに考えております。具体的には就職説明会とか、企業説明会を、ものづくり企業のグループで行わせていただくと、工業高校の生徒さんなどは興味を持ってくれるだろうと思いますので、まずは足立区内の積極的な採用を行っている企業等にお声がけしてやっていくのもありかなと思っております。あとは大学生に関しては、産学連携の推進事業等もあると思いますが、地方から来られている大学生もたくさんいらっしゃると思いますので、就職も足立区でという流れになっていけば、地方から東京にやってきた足立区の大学生がそのまま足立区に就職する仕組みができるかなと思います。そのためには、足立区にある中小企業を知ってもらう活動が重要かと思っております。あだちフォーラム21さん等も積極的にやっていますが、足立区にある6大学と企業で情報交換とかコミュニケーションをとるような施策というのを増やしていただくことで、今まで以上に就職をしていただく学生さんが増えることが期待できるかと思っております。そもそも企業名を知らない学生さんが多いので、知っていただくところがスタートだと思います。すみません、長くなりましたが以上でございます。

大和委員

ありがとうございます。それでは、鈴木様はいかがでしょう。

鈴木委員

人材についてですが、弊社は物流業のため慢性的な人手不足です。これに対する対応としては、外国人労働者も含めて検討をしているところです。以上でございます。

大和委員

それでは、瀬田様よろしくお願いたします。

瀬田委員

弊社の場合、ありがたいことにほとんど人が辞めません。20代から70代まで全部で30人ぐらいの規模で家族的な経営をしています。採用の仕方はクリエイティブ部門とものづくり部門と2つありますが、ものづくり部門は、どこかの会社をいろいろな事情で辞めた方などが、うちの社員や知り合いの口コミで入ってくださる方が多いです。クリエイティブの方は、応募が結構たくさん来ますが、小早川委員も言われているように、本当にできる方は少なく、人手確保がなかなか難しいところです。対応策としては、うちはいろいろな横の繋がりでアライアンスを組んで、ITは札幌の会社に、印刷物のデータを作る仕事は宮崎の会社に頼んでいます。地方は地方で、地元から出られない若者がいるので、そういったところとパートナーを組んでいて、東京の我々は、東京でしかできない仕事を受けてやっていくというふうに協力し合っています。人口が70万人いても中小企業はみんな人が足りないと言っています。人って言っても

人手の人と、高いスキルを持った人とありますが、特に企画開発とかそういったことができる人が少ないと聞きます。大学などと連携して大学生に地域の魅力をしっかり知ってもらうことで、新卒でなくても、1回外に出て大手企業に勤めたらやっぱり合わなかった、という場合で良いので、そういえば足立区に面白い企業あったなと思い出してもらって、選択肢として選んでもらえるような施策を区には継続的にやっていただきたいなと思います。

あとは女性や高齢者の方で働きたいという方が多いので、そういった方々が働けるような、職場作りの支援など、会社を応援してくれる仕組みがあると非常に具体的に助かるのではないかと思います。ところで、私の知り合いの工務店さんに地方から若い女性が現場監督候補として入社しました。大変頑張っていて、うちの工場のリノベーションとか修繕をかかりつけ医みたいに使ってもらっていますが、彼女が来たときに、我々もある意味育てる、応援してあげるという意識を持って、これからどんな仕事がやりたいか、こんなことを一緒にやりたいねなどと話したりもします。お客さんサイドからも地域に入ってきた若者たちを育ててあげることができると、足立区に来た若者が成長できるということに繋がるのかなという気はします。

そういう人情味があるのが足立区のいいところでもあるので、足立区の強みとして少し具体的に組み立てられればいいのかという気がいたします。以上です。

大和委員

ありがとうございます。それでは、最後に古川様よろしくお願ひいたします。

古川委員

はい。個別の企業がそれぞれどう人材を確保するかという問題はもちろんあって、方法論もあると思いますけれども、今回、地域の経済活性化に向けての中長期計画ということの中での議論で申し上げれば、足立区という地域の魅力を高めることで、いかに人が集まってくるようにするか考えることが大切だと思います。

例えば富山県とかは、人に働きたいなと思わせるところです。あそこはそういう戦略をとっていて、地域ぐるみでいろんなことやっているようです。Iターン、Jターン、Uターンまで含めていろんな人たちを呼び込むために、こと細かにいろんなことやっていると聞いています。

東京のど真ん中にある足立区が、荒川区じゃなくて台東区じゃなくて、「足立区」に来てもらうためにどう戦略を立てるかが大事です。「足立区で働きたいな」と考える人が増え、しかも優秀な人が来てくれるようにしたい。優秀な人たちに対してどうアピールするのかということは、当然各企業が独自に考えるべきことですが、地域としての魅力が影響するところも多々あります。足立区としてできることをもっと突き詰めて考えることは有益だと思います。

今日はSDGsの話がありましたけれども、やはり弱者に対してどう配慮していくかというところは、様々な観点から考えていかなければならないかところかと思ひます。

弱者について考えることは、弱者支援だけの効果ではなく、実は優秀な人を呼び込む効果がある。働く環境の良し悪しが優先される時代になっているのですね。例えば、女性は様々な制約を受けている。また障がい者の働く環境も含めていろんな課題がある。弱者を受け入れる多様性のある社会づくりを目指して、区がいろんな形で応援することは大事です。そのような関心を持つ地域を選んで働きたいと考える人も増えている。区内のいろんな事業者と議論しながら、具体策を本気で考えていくようなことがあれば、私だったら足立区で働きたいです。

いろいろな物の考え方ががあるので、十分にディスカッションすべきところかとは思ひます。これも足立区としての魅力をどう伝えるかということと繋がっています。同じことばかり言っていますが、人材育成の面でも地域の魅力をアピールすることは大事だと思います。以上です。

大和委員

ありがとうございます。課長よろしいでしょうか。

吉尾産業政策課長

ありがとうございます。すみません、お時間が押し迫っている中でご意見いただきましてありがとうございます。

ざいます。皆様本当に貴重なご意見、そして核心を突くご意見をありがとうございました。あとは、これを我々が、いかに具体的に盛り込んでいけるか、というところになろうかと思えます。一朝一夕に考えられるものと、そうでないものをまず整理をしていかないといけないというふうに思いますが、今すぐできることはやっていきたいなというふうに思っております。皆様、ご意見ありがとうございました。

大和委員

それでは他にご意見がなければ、石鍋部長よろしく願いいたします。

石鍋産業経済部長

長時間ありがとうございました。本当に私どもの心に突き刺さるご意見たくさん賜りましてありがとうございます。

話の中でSDGsに関する話が出てきました。SDGs、我々がなぜ未来都市として選定されたかというそのところですが、足立区は長年、子どもの貧困ということに取り組んでまいりましたが、貧困を解決しよう、というのが今回の未来都市のテーマでした。それはSDGsの標榜する「誰ひとり取り残さない」といったテーマにも合致していて、こうした課題に真正面から取り組んでいこうというものです。昨年度のアンケートで「何をしたいかわからない」と答えた人たちを取り残さないために、産業経済部としても、なんでも相談員などの伴走型の支援として、創業支援でも販路拡大支援でも現在取り組んでいるところがございます。確かに、この中間見直しでは、古川委員が話された足立区の特徴を強調して、足立区が弱者に寄り添う立場にあり、それゆえに、足立区に行けば安心して起業ができる、というようなメッセージをうまく伝えられるような形で、計画の本文に書き込んでいければというふうに思っております。本日は、本当にありがとうございました。

大和委員

ありがとうございます。それでは、本日の会議は終了させていただきます。事務局に以降の進行をお願いいたします。

吉尾産業政策課長

大和部会長ありがとうございました。本日の会議はこれで終了となります。時間が押しているなかご協力いただきありがとうございました。本日いただいたご意見につきましては、今後の計画の見直しの参考にさせていただきます、必要な部分は具体的に盛り込んでいきたいと考えてございます。

なお、今回は6月下旬に全体会を開催予定でおりますので、また追ってご連絡させていただきます。本日の委員報酬につきましては、口座振込になります。本日から3週間前後に振り込まれる予定となっております。もし請求書兼口座振替依頼書のご返送がお済みでなければご返送をお願いしたいと思います。

それではこれもちまして足立区経済活性化会議第1回中間見直し専門部会を閉会いたします。本日はお忙しいところ、長時間にわたりまして、誠にありがとうございました。

以上